

修了生メッセージ

刀祢 晴菜さん

東京大学 理科一類 一年生

大阪府泉佐野市出身



【前列向かって右が刀祢さん】

刀祢晴菜さんは、今年の春、東京大学に入学した大学1年生。泉佐野市の公文式教室で、数学8年9か月、英語7年9か月学習を続け、ともに最終教材を修了しました。その後、研究コース(大学教養課程相当)まで学習し、英語は大学入試直前の昨年12月まで続けられました。大学生になった刀祢晴菜さんに、小学1年生から続けてきた公文の学習を振り返ってもらいました。

公文式スタート 私が本気になったのは…

私は小1で公文を始め、高校卒業まで続けました。初めの頃はあまり家でも宿題をやる生徒ではなく、もっぱら教室でプリントをやるだけでした。

そんな私が少し変わったのは小4のときです。公文の先生に、中学受験をするなら塾に行く前にI教材まで終わらせておきなさいと言われたことをきっかけに、なぜか私の心に火が付き、毎日公文をやるようになりました(確か、国・数を毎日2枚ずつだったと思います)。一年間で公文をやらなかった日は10日もないくらいだと思います。一年間で驚くほど進みました。(笑)

始めてすぐはサボりたい気持ちもありましたが、自分で決めたルールだったので守りました。1ヶ月もすれば毎日の習慣になり、生活の一部になりました。

私は小4という時期にこういうチャンスを得て、とても良かったと思います

何よりもまず、コツコツやることの大切さを体験できました。

教材をやるときに最も大切なことは、1枚でも1問でも毎日やり続けることだと思います。早いうちにコツコツやる習慣をつけることで、自分と向き合って自分を知るという私の勉強スタイルが身につきました。何日もサボった後、次にやろうと思うと、前の復習から始めないといけないので効率が悪いと思います。



今だからわかる 公文式算数・数学の力

世間一般では、公文の数学は小学生の計算練習だと思っている人がまだまだ多いように思われますが、決してそれだけではありません。数学を最終教材までやったおかげで、数学の基礎体力を持って大学受験に挑めました。今の私の数学力の基は、公文でできたと言っても過言ではありません。

私は中高一貫の私立学校に通っていたので授業も公立より進むのが速く、公文で先取り学習をしていたおかげで速い授業にもついていくことができました。単元によっては、公文でやった記憶だけで練習問題に手をつけられるほど、余裕があることもありました。自分はずっと理解が早いタイプの人間ではないので、学校の授業だけで全てを理解しなければならないとなると、キビしかったと思います。(笑)

公文の数学の問題は、大学受験にそのまま出題されるようなものではないことが多いですが、入試問題は基礎の組み合わせなので、公文で基礎力を養うことはやはり意味があると思います。

公文の英語の魅力は・・・

英語は小5から始めました。英語は数学ほど先取り学習ができていたわけではありませんが、毎日音読があったことはとてもよかったと思っています。学校の授業では、音読をすること自体それほど多くないですし、あったとしてもそれはたいていみんなで一斉に読むもので、一人で音読してそれを先生に聞いてもらうという機会は公文だからこれほど多くあったのかなと思います。

他には、文章を読むことを中心にした教材が多いことも特徴的だと思います。英語は、英語を学ぶだけでは十分でなくて、他の教科で学んだ知識が読解に役立つこともあるし、その逆もまたしかりで、多くの文章を読むチャンスがあったことはこうした学習の先がけになりました。

両親への感謝を込めて

私の両親は、私のことを後ろで支えてくれる存在でした。私は親から勉強しなさいと叱られた記憶はありません。それはおそらく、私の自主性を尊重してくれたからだろうと思います。ただ、勉強の助けになるようなことには進んで協力してくれたし、小学生の頃なんかは父親が算数を教えてくれることも多かったので、その点では良い環境で育つことができたのかなと思います。

公文を続けるためのモチベーションは・・・

もう一つ良かったと思うことは教室での目標設定です。例えば、夏休みが終わるまでにココまで進むという目標を決めたから、達成するためにはこのくらいのペースでやらないといけないなど、具体的な数字として日々やる教材の量を考えることができました。プリントを毎日やり始めてからは、1日に何枚するとココまで進めるという目安から、目標を立てていました。目安から目標を決めると、サボってしまうと目標が達成できなくなってしまうので、それもまた自分のモチベーションを維持していくことにつながりました。

これは全てのことに通じるとは思うのですが、ちょっと手を伸ばせば届くところに目標を立てて、それを達成できるように努力することで、効率よく自分を高めることができたと思います。



駒場東大前

今、刀柝さんはここで

学んでいる

刀柝さんが所属する

東京大学プラスアカデミー

